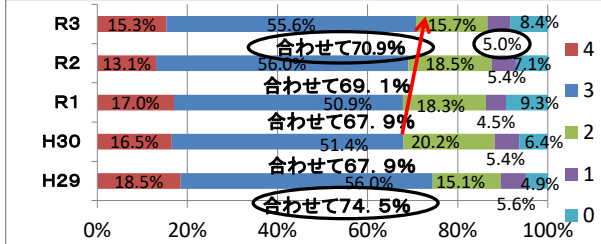
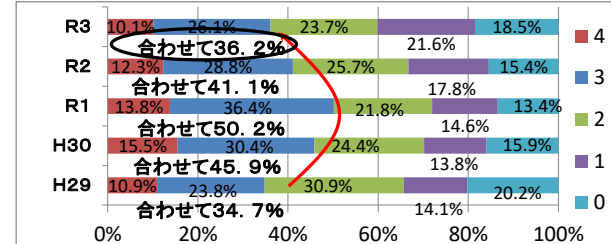


＜項目1＞ ●先生方は分かりやすい授業になるように工夫している



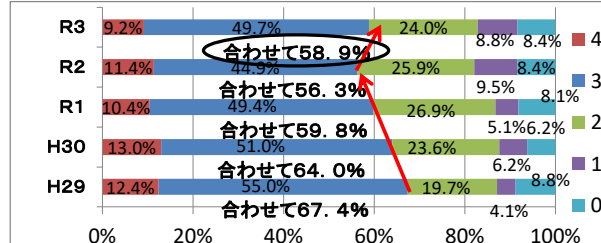
「④+③」の肯定感が「どちらかといえば思う」の割合が生徒肯定感を表していると考え、今年70.9%←前1年(69.1%)←前2年(67.9%)とジリジリ上昇！！7割の肯定感。ただ、4年前の74.5%からすれば、ここ数年は4%～7%ほど落としている。加えて「①思わない」が今年5%(24名)。分かりやすい授業は経営の根幹である。

＜項目6＞ × ×朝の10分読書の影響で朝の集中力がアップしていると感じる



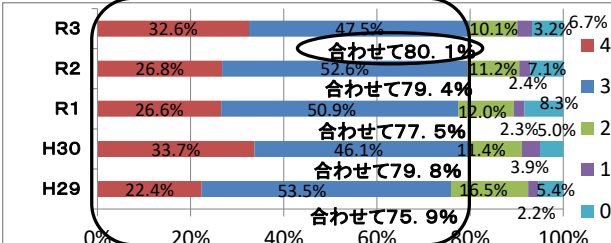
「④+③」の肯定感をみるとR1まで上昇して来た肯定感が、以後R2⇒R3へと減に転じている。前年-4.9%この2年間の特殊な状況(コロナ)が影響しているのか、学年教師団の姿勢に緩みでも出たのか、各学年での点検が必要である。やる以上は充実させる。

＜項目2＞ ●意欲的に授業に取り組めるような環境作りが出来ていると思う



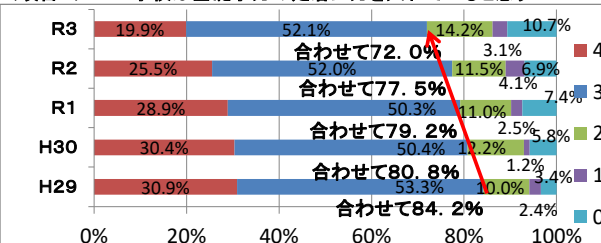
「④+③」の肯定感が過去3年間、ジリジリと減少して来ていたが、今年増加に転じた！「学習環境作り」は我々教師の責任。低下傾向にやっとなげ止めが。居眠りあり、騒がしい授業、質問もできない、えこひいき…これは近年の授業評価から聞こえてきた生徒意見。授業内容の真剣な点検が必要。生徒満足度に大きく関わる。

＜項目8＞ ●学校は健康で安全な学校生活に配慮していると思う



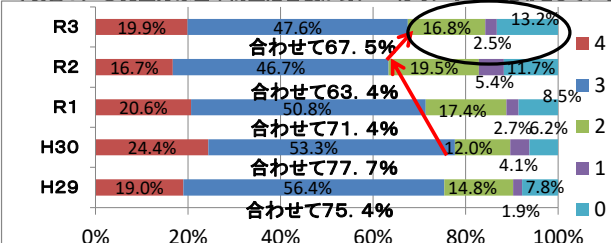
約8割の高い肯定感が毎年維持されている。今年は過去一番。特にこの2年間は「コロナ」で生徒も職員も大変苦労した。保健部先生方の活躍と全先生の協力姿勢が生徒にも見えていたということである。生徒・先生方へ感謝したい。そして、気を抜かず感染防止に努める！

＜項目3＞ × ×学校は基礎学力の定着に力を入れていると思う



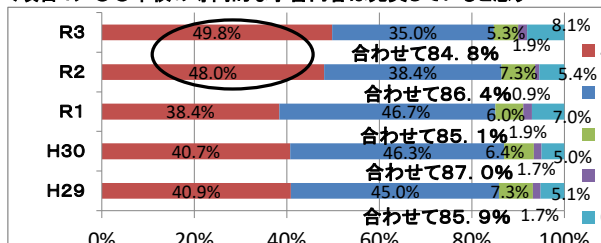
非常に良くない傾向がみられる。年々「生徒肯定感」が減少しているという事実。日々のマナトレや自学ノート、放課後学習会などが「学力定着のため」と認識されていないということ。なぜこのような取組をおこなうのか、丁寧な説明が必要かもしれない。加えて、その効果もデータを用いて常に分析把握したい。進路+教務の出番！

＜項目9＞ ●先生方は基本的な生活習慣が身につくように丁寧に指導をしている



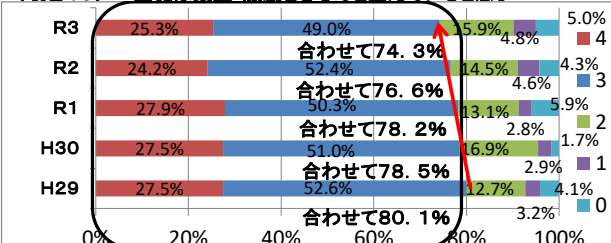
「④+③」の肯定感減少傾向に歯止めがかかった。前年比+4.1%今年、残り19.3%(92名)は否定的。13.2%(63名)は分からないとの回答。否定的の意味を考えたい。我々の生活指導が「丁寧ではない」とは？折々の指導場面で、校則や「なぜこの指導が必要か」等のくだいた説明が必要かと。

＜項目4＞ ●本校の専門的な学習内容は充実していると思う



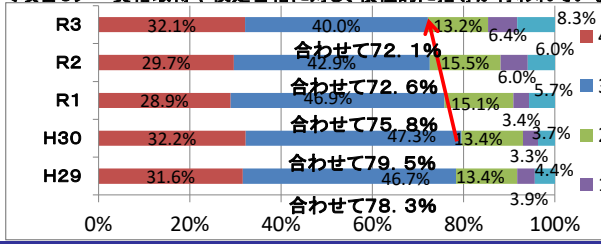
86%前後の肯定感が毎年安定して出ている。大変良好である。特にこの2年間は「思う」が48～49%と過去最大。これは、普通科音楽・保育コース食物・ビジネス・看護などに関わる専門科目が、科の特色をうまく出しているということか。昨年度の教育スローガン「科の個性を際立たせる」が達成できているとも言える。

＜項目10＞ ×生徒は頭髪・服装をきちんと整えていると思う



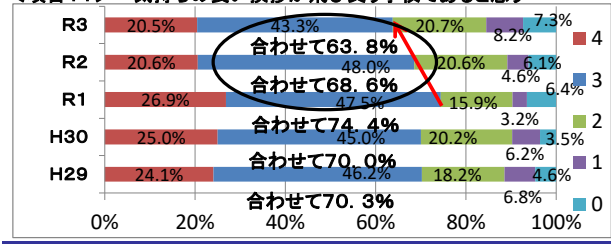
この4年間で肯定感が少ずつ減少している点は気になるが…それでも8割弱を常に維持しているのは先生方の指導が生きている証拠。感謝！今後は、「指導基準」を統一する等の目線合わせが今一度必要なのかも知れない。加えて、その場での指導+報連相…

＜項目5＞ ×資格取得や検定合格に対し、積極的に指導が行われていると思う

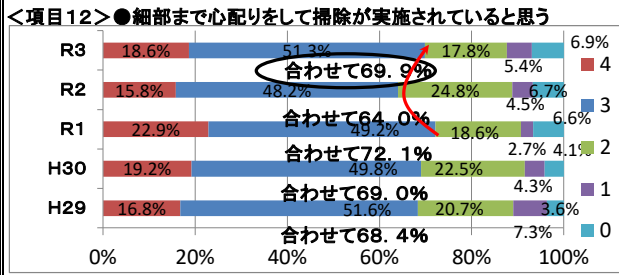


ここ3年間、「④+③」の肯定感がジリジリと減少している。この指導は、各科での「生徒モチベーション」維持にも大いに関わるものであるはず。結果公表を一昨年度末から始めているが、今後も良くても悪くても結果はすべて出してゆく高い受験料である、説明責任が求められる。「顧客満足度」にも関わる。

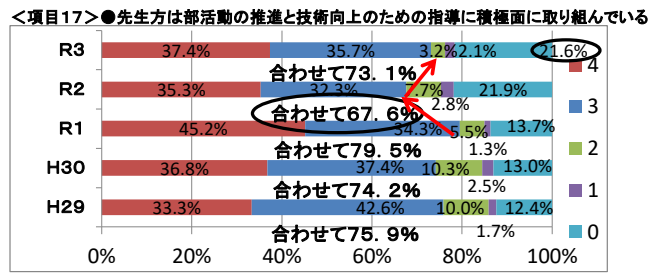
＜項目11＞ ×気持ちの良い挨拶が飛び交う学校であると思う



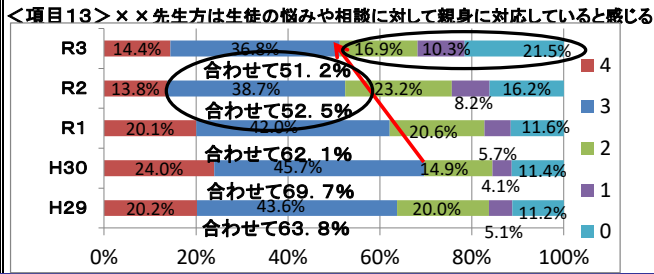
この2年間で「肯定感」が7割を切ってしまった。下降傾向が続く。ものごとの始まりをスムーズに、終わりをけじめあるものにするためにも…。反省の意味を込めて言えば、まずは我々教師側の「気持ちのよい挨拶」の励行だと思われる。生徒の手本になっているだろうか。足元を見直すべきかと。



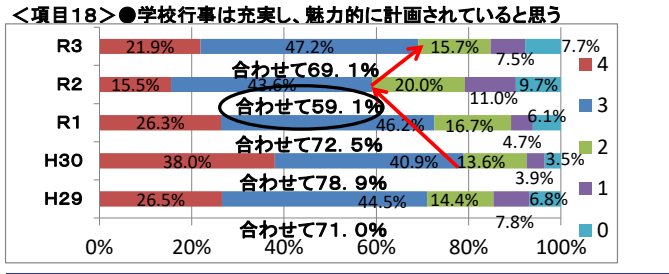
「④+③」肯定感減少に歯止めがかかった。何とか7割に復帰！
 昨年は4月・5月のスタート時期での生活指導がコロナ休校で抜けたのが影響しているのかも知れない。今年はそれが出来ていた。学校が荒れる兆候はまずキタイン校内状況に見られる。小さな乱れの内修正する。我々の姿勢にかかっている。



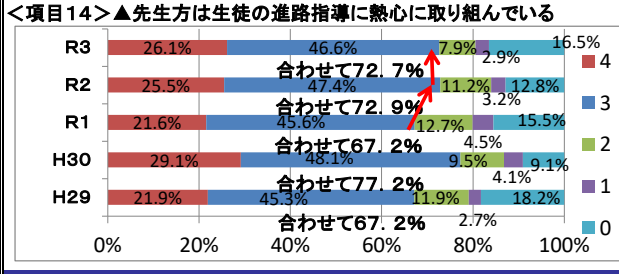
昨年の低い肯定感「④+③」はやはり特別だと思いたい。今年、対前年+5.5%
 昨年は、試合・コンサート・県外遠征…などが軒並み中止に追い込まれた。コロナ禍。今年はその制限が徐々に緩和され、各部活動の動きが再開されたからだろうか。
 ①分からない「21.6%」103名の多さも目立つ(部活参加率)。



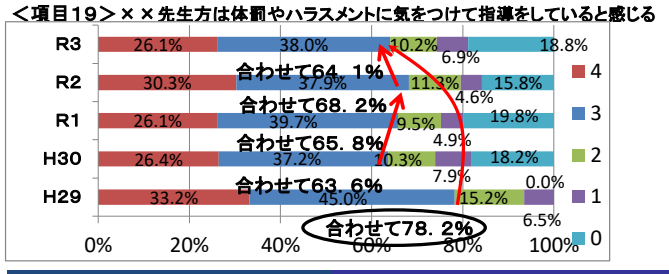
この項目は、生徒との信頼関係に関わる重要事項。この3年、特に大きく下げている。
 今年の否定的意見27.2%(130名)、分からない21.5%(103名)の存在に注意したい。
 我々教員の気持ち(親身)が「うまく伝わっていない」ということか。対応はできているはず。
 生徒とのコミュニケーションを、更に丁寧に注意深くとる必要があるのかもしれない。



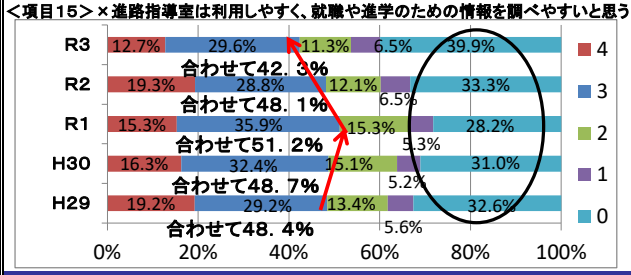
やはり昨年は特別な状況だったのだろう。今年是对前年+10%！
 昨年は保護者なしでの戴帽式や包丁授与式、文化祭の中止、修学旅行変更や変則的な体育祭…など、厳しい状況下での実施であり、確かに充実度は低かった。
 今年、多少挽回できた。生徒の反応は敏感である。



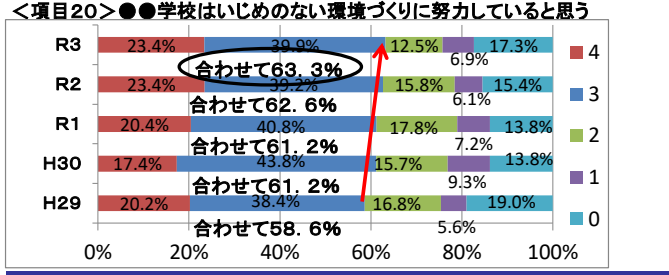
「④+③」の肯定感、この2年間で7割超には盛り返して来ている。
 種々のデータを分析しての生徒学力把握等が少しづつ定着してきた。それは今後も必須。
 当たり前のことだが、学力の高い生徒の存在が明らかになって来ている。今後の細やかな対応が的確な進路指導につながる。ノウハウの習得を。



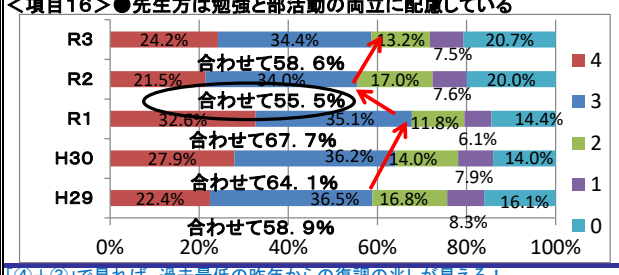
「④+③」肯定感、昨年までの上昇傾向が今年減少に転じた。前年-4.1%
 メリハリを効かせた生徒指導、理由を丁寧に添える生徒指導、互いにマナーを意識した生徒指導(暴言…)などなど、我々は常に心がけている。
 それにしても、H29と比較すれば-14.4%と大きく減少している。教師側の意識の問題か



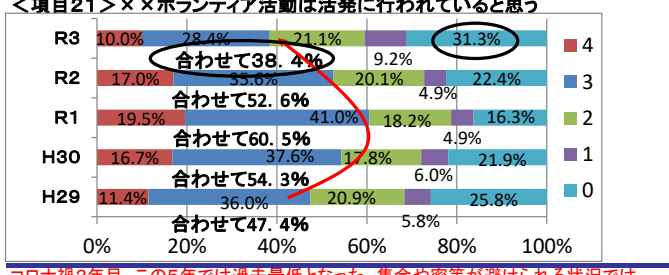
まず目につくのが、「①分からない」生徒の多さ。今年で39.9%(191名)である。
 図書館と同様に、進路室に足を運ばせる工夫がさらに必要か。進路便りも継続したい。
 教室場面、集会場面など、折に触れて「進路指導」に関わる話題を生徒へ提供したい。
 どんな資料があるのか、どういう風に調べるのか、何が分かるのか…まず教師が知る。



生徒集会等でも「学校として断固とした対応をとる」との姿勢を示してきている。
 この5年間で一番の結果。安心安全な生活環境を整えることは学校経営上、最も重要な視点である。更に向上させてゆく。当然に生徒募集にも生きてくるはず。

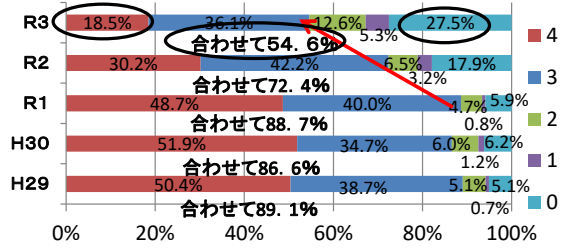


「④+③」で見れば、過去最低の昨年からの復調の兆しが見える！
 特に昨年のコロナ禍は試合等を中止・自粛に追い込み、校内での練習等にも焦りや落胆を残したはず。指導者にとっては「やれる時にやるしかない」とのスタンスしか持てず、やや文武のバランスに欠けた活動になったのかもしれない。



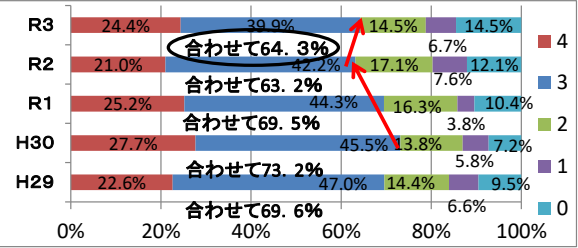
コロナ禍2年目、この5年では過去最低となった。集会や密等が避けられる状況では活動も難しくなったと思われる。それでも、家庭クラブ有志による活動など、感染防止と平行しながら実施されていた事実はある。次年度に挽回を図る。
 また、「分からない」が31.3%(150名)、活動のアナウンスが必要である。

<項目22> ××本校は国際理解教育(異文化理解)や国際交流に努めていると思う



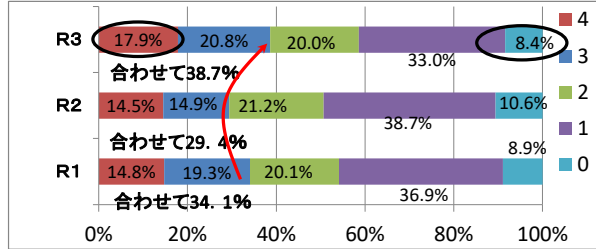
本校の大きな強みの一つがこの「国際交流」関係であるのだが、現下の状況では、米国にも、韓国にも、国内での移動すらままならない状況である。致し方ない肯定感の減少かと。ただ、今年度は、リモートでの生徒交流がオーストラリアの高校との間で実施できた。指導先生方に感謝。「分からない」27.5%(131名)は、広報不足かもしれない。

<項目26> ●学校は女子校らしい学校づくりに努めていると感じる



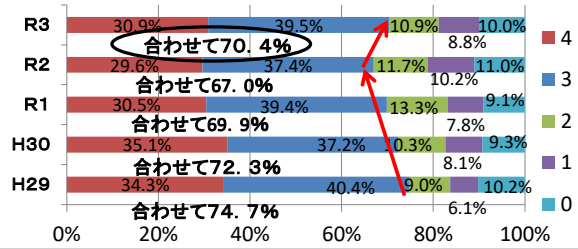
過去2年間、シジリと減少傾向が見えていたが、今年、前年比+1.1%の復調。施設設備、各学校行事、生活指導…、改めて「建学の精神」・女子教育の視点を職員全員で確認する必要があるように思われる。女子校らしい指導・学校づくり

<項目23> ●朝の読書や一日一詩などにふれることによって、図書館を利用した



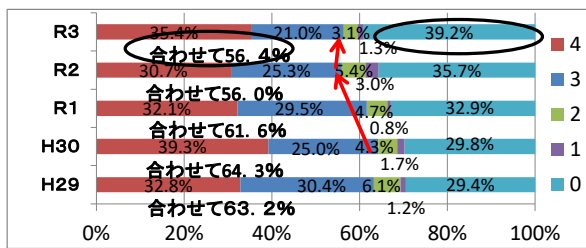
「学習ルーム」や「心を落ち着かせる場所」図書館を利用したHR…などが生きてきたが、一方、一昨年度は年間一人4.6冊の読書、昨年度4.2冊そして今年度は3.68冊。残念！ICT導入も今後重要になるが、本校では、まず「読み・書き・計算」ではなからうか。読書・新聞など、文字に多く触れさせたい。その工夫が必要。一日一詩も生きてきた。

<項目27> ●この学校に入学してよかったと思う



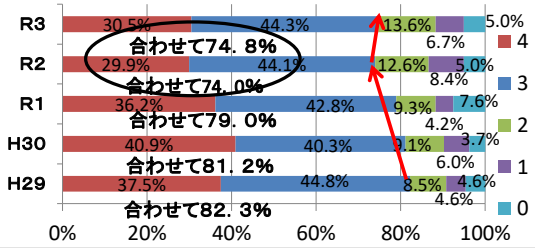
過去3年間、生徒肯定感「④+③」が減少傾向をみせていたが、今年やっと7割に復帰！これは、学校への信頼感や満足度を表す。保護者満足度・生徒満足度は特に私学では重要な視点。私達は、今一度、様々な場面での「自分の責任」を点検したい。満足度を上げるものになっているか、説明責任を果たしているか。

<項目24> ▲スクールバスは安心・安全に運営されていると思う



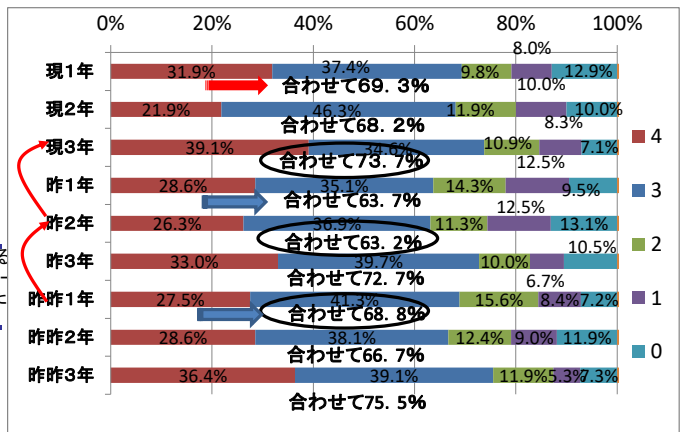
やや持ち直した「安心・安全」。と同時に「分からない」が39.2%187名と過去最大であるスクールバス利用者数の問題か。今年も「当て逃げされる」等の事故や民間からのクレーム等があった。生徒の命にかかわる「バス運行」である、100%を目標に安全運行に努めた

<項目25> ●学校が明るく楽しいと感じる



過去3年間での肯定感「④+③」減少にやっと止まりめがかかった。コロナ禍では、常に感染リスクとの闘いであり、まずは、生徒の安心・安全を最優先に学校経営を継続してきた負の結果なのかも知れない。この2年、職員にも余裕がなかった。日々、手洗い・マスク・密回避等の徹底が最優先課題であった。徐々に挽回を図る。

<学年別集計>この学校に入学して良かったと思う



満足度を学年ごとに細かくみると…

- ① この3年間を、「1年生満足度」で比較してみると今年の1年(現1年)が一番高い。特に昨1年生は、6月新学期の厳しい1年間であった。2年生に限定して比較しても、今年の2年生の満足度が高いようである。
- ② 現3年生満足度(73.7%) ↓昨2年生(63.2%) ↓昨昨1年生(68.8%) この傾向はおそらく平均的。2年生は中だるみ、3年生は進路指導等への感謝の念が出てくる。 **すべての学年の満足度を8割に伸ばしたい**

生徒・保護者の満足度をいかにして引き上げるか、どう説明責任を果たすのか…我々職員全員で考えるべき課題である。

顧客満足度・説明責任！